

事業名 : 芸術によるまちづくりの推進を図る事業  
 団体名 : NPO 法人但馬アーツコモンズ

## 1 事業内容

- 1.ヘンテコウィーク 10月11日～10月20日 江原駅周辺(主な会場:江原101)
- 2.全担バス株式会社と連携し、バスに若年層が集まるイベント「バスカフェ」の実施。

### 【事業経過】

月日	実施内容	場所	参加人数
6-10月	ヘンテコウィーク準備 mtg(開催に向け 20 回程度開催)	江原_101、オンライン	4-12名
10/11-20	ヘンテコ案内所運営	江原_101	938人
10/11	シンポジウム「ヘンテコウィークの楽しみかた」	江原_101	9名
10/11	江原区有志によるオープニングパフォーマンス	立光寺	106名
10/11-20	一次的二次創作	友田酒造	111名
10/12	忘れてしまったことなど/ヘンテコフリマ	江原_101	31名/ 120名
10/12,13	無性にさみしい、のような、どこまでも個人的なことについて	江原_101	30名
10/12	言語遊戯「HESOVIDE0」第一回世界大会 in 江原	江原_101	15名
10/12	日高かるた選考お披露目会	江原_101	13名
10/13,18	江原さんぽ	江原駅周辺	10名
10/13	身体パフォーマンス	江原区公民館	71名
10/14	脱力倒立教室	江原_101	35名
10/14-15	振付ってなんだ?/ 前川ストレッチワークショップ	江原_101	28名
10/14-15	ダンスとすごす5	江原_101	41名
10/15,17	○△□空き家超さんぽ～成仏方法その1～	江原駅周辺	19名
10/15	ゆるクラブ	江原_101	17名
10/17	ガザ・モノログ朗読会@ヘンテコウィーク	江原_101	9名
10/17	芸術と観光の関係の、基本的な確認	江原_101	19名
10/18	アフタートーク/ スーパー行って食事会	江原駅周辺	3名/ 22名
10/18, 19	幽霊とか宇宙人が今もどこかにいるかもって思う。	オモテヤ	60名
10/19	お寿司の演劇ワークショップ	江原_101	19名
10/19	たじたび★但馬ツアー-in 日高	江原駅周辺	不明
10/19	お寿司の演劇ワークショップ発表会+座談会	江原_101	43名
10/19	ボードゲーム大会	オモテヤ	14名
10/20	お寿司の衣装ワークショップ～なりたいものになる～	江原_101,江原駅周辺	21名
10/20	バスカフェ	パーガーツ前駐車場	137名
10/20	最終パフォーマンス『十三人のヘンテコな住民たち』	江原_101	42名
10/20	みんなあつまれ!ヘンテコ大感謝パーティ	江原_101	43名
11-2月	ヘンテコウィーク報告書作成、クラウドファンディングリターン作業	江原_101、オンライン	4-12名

## 2 事業の効果

### (1) 団体(組織)内の効果

プログラムの多様性と連携の調整において、多岐にわたる企画を統括するため、スケジュール管理や会場確保、各プログラムの責任者との連携に多くの時間と労力を費やしました。限られた人員の中で、一人当たりの負担が大きくなり、特に運営メンバー間の情報共有や意思決定のスピードが求められました。天候や交通といった外部要因の影響が顕著で屋外イベントの実施可否を天候によって判断する必要があり、直前の対応に追われる場面が多く発生しました。また、来場者数が想定を超えたことで、一部の会場では座席やスペースの不足が発生し、急遽代替案を模索する場面もありました。こうした不測の事態に対応するため、柔軟な運営体制の重要性を再認識する機会となりました。幅広い年齢層や異なるバックグラウンドを持つ来場者が満足できるよう、プログラムの内容を工夫し、運営スタッフとの円滑な連携が必要でした。特に、参加者への案内やサポートの体制を強化することが求められました。

### (2) 地域への波及

演劇やダンスなどの芸術文化に馴染みのない地域住民が多い中、ヘンテコウィークの参加者の約 8 割が

芸術関係者ではないことが判明し地域に根付いたアートフェスティバルとして画期的な成果となった。フェスティバル終了後も、子どもたちがダンスや倒立の練習を自主的に続けたり、人前で堂々と話せるようになったりと、日常生活に変化が生まれ、また、地域の清掃を積極的に手伝う姿も見られ、芸術を通じた地域への関わりが深まっています。大人たちからも「来年度の開催を楽しみにしている」「あのプログラムが面白かった」といった声が寄せられ、イベントの記憶が地域で共有され続けています。こうした変化を目の当たりにし、芸術文化が日常の一部となりつつあることを実感しています。

### 3 協働の相手方

一般社団法人豊岡アートアクション、EBARA 101：ヘンテコウィークで協力、運営協力  
全但バス株式会社、ひよコモンズ：バスカフェで運営協力

### 4 今後の課題等

#### (1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

継続的な運営を実現するために、情報発信の強化、財政基盤の確立、人材育成の三点を軸に、専用サイトやSNS、HIBO コモンズを活用し、年間を通じたイベント情報の発信力を高めることで、地域住民や外部の支援者とのつながりを維持します。定期的な情報発信を行うことで、活動の認知度向上と参加者の増加を目指します。また、長期的な資金確保のため、企業スポンサーの開拓に取り組みます。地域企業や文化支援団体との協力関係を築き、持続可能な運営のための資金調達を強化します。加えて、参加型ワークショップや「バスカフェ」などのイベントを通じた収益モデルの確立にも注力します。未来の芸術文化を支える人材育成として「演劇ってなんだろう？」を定期開催し、中高生や大学生の芸術への関心を高めるほか、インターンシップや運営ボランティアの受け入れを拡充し、若い世代が積極的に活動に関われる環境を整えます。

#### (2) 地域活動を拡大していくための工夫等

地域住民との交流の拠点として、空き家をリノベーションした「オモテ屋」を開業し、ワークショップや朗読公演を定期的で開催し、若者から高齢者まで幅広い世代が気軽に芸術文化に触れられる環境を整えます。また、但馬地域全体への文化交流の波及を目指し、「バスカフェ」の定期開催を検討しています。移動型の文化イベントとしてさまざまな地域に芸術文化を届けることで、活動の裾野を広げます。「オモテ屋」と連携したプログラムの充実を図り、観るだけでなく「体験する」機会を増やすことで、より多くの人が関わりやすい仕組みを作ります。



6年9月1日 サードプレイス清掃



6年10月11日オープニングパフォーマンス



6年10月12日 日高かるた選考お披露目会



6年10月20日 お寿司衣装のワークショップ